

2018年8月20日  
第126号  
(Web版第20号)

# 日本犯罪社会学会ニュース

発行

日本犯罪社会学会  
JAPANESE ASSOCIATION OF  
SOCIOLOGICAL CRIMINOLOGY

- I 『犯罪社会学研究』自由投稿論文の締切変更について
  - II 『犯罪社会学研究』自由投稿論文の投稿資格について
  - III 第34回日本社会病理学会大会のお知らせ
  - IV 「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」(第1回)  
ご協力をお願い
  - V 第18回(2019年度)「日本犯罪社会学会奨励賞」自薦・他薦の募集
  - VI 各部・委員会報告
- 付 「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」(第1回)への回答協力をお願い(文書)

※第107号からニューズレターはWebのみで発行しております。

※会員動向につきましては、年間1回、会員のみに詳細版を郵送いたします。

## I 『犯罪社会学研究』自由投稿論文の締切変更について

この度、編集委員会におきまして、機関誌第44号（2019年発行）以降の自由論文の投稿締切を3月31日とすることが決定しました。これにより、査読期間とそれを受けての修正期間を十分に確保でき、論文の質を向上させられることが見込まれます。会員の皆様のご投稿をお待ちしております。

## II 『犯罪社会学研究』自由投稿論文の投稿資格について

投稿者の投稿資格については投稿規程内に「日本犯罪社会学会の会員に限る」と定められておりますが、今回編集委員会内で「投稿者は（共著論文の場合は全員について）、遅くとも投稿締切日までに学会事務局に入会申込書を送達していなければならない（同日必着）。この要件を満たさない場合は、論文を受理しない」ことが確認されました。現在非会員で、今後投稿を予定されている方はご注意ください。

## III 第34回日本社会病理学会大会のお知らせ

第34回日本社会病理学会大会を下記の通りに開催します。ご関心のある方をお誘いあわせのうえ、奮ってご参加ください。

日程：2018年9月29日（土）・30日（日）  
会場：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

### プログラム

1日目：9月29日（土）

11:00～12:00 理事会

12:00 受付開始

12:30～12:40 開会式

12:40～14:10 自由報告部会

14:20～16:40 ラウンドテーブル

16:50～17:50 総会

18:00～20:00 懇親会

2日目：9月30日（日）

10:00～12:00 自由報告部会

13:00～16:00 シンポジウム

16:00～16:10 閉会式

### 内容（テーマ・登壇者）

(1) シンポジウム「社会病理と公共の社会学—社会病理が照らし出す『公共』」

三浦恵子（東京保護観察所）

「保護観察の位相の変化から考える—『立ち直り』の相克」

高橋康史（名古屋市立大学）

「加害者家族問題からみえてくること-公私関係の焦点となる家族のありか」  
安田恵美（國學院大学）  
「フランスの『社会復帰』支援にみる公共とソーシャルコントロール」  
松原洋子（立命館大学）  
「新優生思想と公共-強制不妊手術問題・相模原障がい者殺傷事件からみえてくること」  
コメンテーター：麦倉哲（岩手大学）  
進行：中村正（立命館大学）

(2) ラウンドテーブル「社会病理・社会問題研究の可能性Ⅱ（社会的排除はいかに研究しうるか）」

中森弘樹（京都大学）  
「失踪の研究は何を意図しているのか」  
齊藤直子（大阪市立大学）  
「結婚差別のプロセスを把握することから」  
金友子（立命館大学）  
「ヘイトとマイクロアグレッション」  
野島那津子（大阪大学）  
「慢性疲労性症候群の患者の語りの研究から」  
討論者：進藤雄三（大阪市立大学）  
ファシリテーター：朝田佳尚  
\*題目については変更される可能性があります。

（日本社会病理学会渉外・広報担当理事 田中智仁）

#### IV 「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」（第1回）ご協力をお願い

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences, GEAHSS）・日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会・お茶の水女子大学・東京大学が共同で実施している「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」に関しまして、本学会会員にも協力が依頼されています。巻末の添付文書をご参照の上、ご回答をよろしくお願いいたします。

#### V 第18回（2019年度）「日本犯罪社会学会奨励賞」自薦・他薦の募集

日本犯罪社会学会では、犯罪、非行、刑事司法、及び、それらに関連する諸事象に関する社会科学的研究の活性化と発展のため、そして、知的資産の不断の蓄積および学術内容の更なる質的向上のため（特に若手研究者への刺激と登龍門として）、「日本犯罪社会学会奨励賞」を創設し、受賞研究業績を選考し表彰しております。

2019年度は、論文が選考対象となる年です。2017年4月から2019年3月までに公表された、原則として満35歳以下の会員（受賞時点で会員であること）による論文の自薦・他薦を募集いたします。ノミネートの期限は2019年3月31日（消印有効）です。詳細は学会ホームページの「奨励賞規約」をご覧ください。

自薦・他薦いただく際には、以下の情報を記した書面とともに、選考対象論文を5部、学会事務局宛ご送付いただくようお願いいたします。封筒に「奨励賞応募論文在中」とご明記ください。な

お、応募された論文5部は返却いたしません。

- 1) 選考対象の著者名（フリガナ）、連絡先住所、電話番号、メールアドレス
- 2) 選考対象者の生年月日
- 3) 選考対象論文名、掲載誌名、出版年月日
- 4) 他薦の際には、推薦者の連絡先住所、電話番号、メールアドレス

日本犯罪社会学会 事務局

〒577 - 0036 東大阪市御厨栄町 3—1—35 学術センター U—Box 2階

## VI 各部・委員会報告

### 1 研究委員会

第45回大会のプログラムを9月初旬までに皆様のお手元にお届けする予定です。大会への皆様のご参加を心よりお待ちしております。

なお、報告要旨集に掲載する原稿形式について、従来は、報告の種類を問わず、自由報告のテンプレートに準ずることとしていましたが、新たに、テーマセッション、大会シンポジウムの要旨原稿用テンプレートを作成し、学会ウェブサイトアップロードすることになりました。詳細は追ってメールでお知らせいたしますので、テーマセッション及びシンポジウムのコーディネーターの方はご確認ください。

### 2 編集委員会

現在、『犯罪社会学研究』43号発行に向けた準備を進めております。大会にて会員のみなさまにお渡しできる予定です。

また、ニューズレター冒頭でもお知らせしたとおり、『犯罪社会学研究』44号の自由論文・研究ノートの投稿締切が例年とは異なりますのでご注意ください。締切日は2019年3月31日（消印有効）です。

原稿はHPおよび最新の既刊号所載の投稿規程に従って、下記住所宛にご送付ください。なお、投稿は随時受け付けております。本誌が犯罪社会学の自由な学術フォーラムとなることを期待しています。

<自由論文・研究ノートの投稿先>

〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-10 八ッ橋ビル7階 現代人文社気付

日本犯罪社会学会編集委員会

学会誌編集業務に関するご意見・ご質問につきましては、下記までお寄せください。

<編集委員会事務局>

[hanshahenshu16@gmail.com](mailto:hanshahenshu16@gmail.com)

### 3 渉外広報委員会

#### (1) 研究会助成について

渉外広報委員会では、犯罪社会学に関する研究会に対し、助成を行っております。年度ごとに2件、1件あたりの助成金は40,000円です。

詳しくは学会ホームページ(<http://hansha.daishodai.ac.jp/kenkyukai/index.html>)をご参照の上、

奮ってご応募ください。

## (2) アジア犯罪学会について

2018年6月24-27日にマレーシア・ペナンにて開催されたアジア犯罪学会(Asian Criminological Society)第10回大会において、宮澤節生会員がアジア犯罪学会の新会長に、石塚伸一会長が理事に選出されました。また、同大会(新旧理事を含む理事者の会合)において、2020年のアジア犯罪学会・年次大会の開催について、石塚伸一会長と笹倉渉外・広報担当理事によるプレゼンテーションが行われ、全員一致で龍谷大学において開催することが承認されました。

なお、アジア犯罪学会は例年6月の平日に開催されているところ、日本(龍谷大学)で開催される2020年の開催時期・曜日については、10月上旬または下旬の週末に開催する方向性が了承されました。また、2018年7月14日に開催された、本学会常任理事会において、本学会の大会もアジア犯罪学会と日程を合わせて龍谷大学において同時開催することが了承されました。ただし、学術プログラムについては、それぞれの学会が独自に企画・運営することとし、今後、シンポジウムやテーマセッションの共催などについての協力を渉外・広報委員会などを中心に検討することとなりました。なお、それぞれの大会参加費・懇親会などの大会運営については、大会校である龍谷大学に一任されることとなりました。

## 4 本部事務局会計部

### 会費納入のお願い

まだ2018年度の会費をお支払い頂いていない方は、郵便振込にて会費を納入されるようお願い申し上げます。金額、口座番号および口座名は下記の通りです。

また、領収書をご希望の方は払込票の通信欄にその旨を記入して下さい。

通常会員 8,000円

但し、院生会員 6,000円 (大学院に在籍し、かつ常勤の職を有しない会員)

国外会員 7,000円 (国外に在住し、かつ国内に連絡先を有しない会員)

郵便振替口座 00950-2-148284

加入者名 日本犯罪社会学会

会費を3年未納となりますと年度末で退会扱いとなります。滞納されていて会員の資格についてご確認なされたい方、また退会をお考えの方は、その旨を事務局まで御一報下さい。

なお、銀行振込や小切手での会費の支払いは受け付けておりませんのでご注意下さい。

## 6 本部事務局庶務部

### (1) 献本 (2018年4月26日～2018年7月11日現在)

下記の通り献本がありました。ご報告少々、お礼申し上げます。

・龍谷大学矯正・保護総合センター発行

『キャンベル共同計画 介入・政策評価系統的レビュー』第12号

・科学警察研究所著 『科学警察研究所報告』第67巻第1号

・刑事立法研究会編 (責任編集：土井政和、正木祐史、水藤昌彦、森久智江)

『「司法と福祉の連携」の展開と課題』現代人文社

・・・・・・・・・・・・・・・・以上3冊

(2) 会員数 (2018年7月14日現在)

一般会員 467名、名誉会員 13名、終身会員 1名、特別会員 2団体、合計 483名

※個人情報保護のため、ニューズレターの記載は人数のみとします。会員各位には、年間1回、会員動向の詳細版を郵送いたします。

\*\*\*お願い\*\*\*

転勤等で所属や連絡先を変更された場合は、学会事務局まで速やかにご連絡下さい。

事務局では、会員の皆様からのご意見、ご要望、インフォメーションなど随時承っております。

.....  
日本犯罪社会学会 事務局

〒577-0036 東大阪市御厨栄町3-1-35 学術センター U-Box 2F

TEL : 06-6618-4324 (月～金 10:00-16:00)

FAX : 06-6781-8883

E-mail : hansha@daishodai.ac.jp

\*お問い合わせ・ご連絡は、なるべくメールでお願いいたします。  
.....

付

「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」  
(第1回) 2018年6月  
貴学協会の会員の皆様への回答依頼のお願い

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 (Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences, GEAHSS) ・日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会・お茶の水女子大学・東京大学の共同で、「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」を実施する運びとなりました。

つきましては、以下のウェブ調査画面 URL を貴学協会のすべての会員 (男女いずれも) の皆様にメーリングリスト等を通じて周知していただき、ご回答を奨励していただけますよう、何卒お願い申し上げます。

<https://panelsrv.p.u-tokyo.ac.jp/v2/?r=30NxbM0we5ySoUsCHSJl>

以下の QR コードからも画面に入ってくださいことができます。



ご回答の期限は 2018年9月末までです。調査画面はマルチデバイス対応で、PC、スマホ、タブレット等のいずれからでもご回答いただけます。

調査範囲は、GEAHSS 加盟学協会を基本としつつ、未加盟の学協会にもお願いすることを予定しております。

調査の内容は、教育経験、仕事内容・仕事の履歴、仕事環境・研究環境、家庭との両立、今後のキャリア展望、研究職の男女共同参画に関する意見などに関する事柄です。ご存知のように、理系では、男女共同参画学協会連絡会を 2002 年に立ち上げて以来、4～5年ごとにこうした大型調査をされてきました。<http://www.djrenrakukai.org/> にその成果をみることができます。その成果は、科学技術・学術政策にも影響を与えてきました。それをふまえ、本調査の項目は、理系が行ってきたものをベースにしながら、理系との比較を可能にするような人文・社会科学系向けの項目を付加いたしました。

本調査の分析結果を第2回目の GEAHSS と日本学術会議との年次共同シンポジウム (2019年2月予定) で報告して、政府への提言等に生かせればと考えております。

日本は理系、人文社会科学系ともに、女性の研究者割合が OECD の中でも際立って低いことはご存知の通りです。人文・社会科学系においても、研究者の実態を踏まえ、ニーズを明らかにして、政策にアピールしていければと思っております。

なお、本調査の企画・実施は下記6名の調査実施企画委員が担当しております。各委員は日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会もしくは GEAHSS 加盟学協会に所属しております。今後も調

査結果の分析・公表等については、日本学術会議と GEAHSS の 2 つの組織が協力して実施していければと考えております。

以上について、何卒よろしくお願い申し上げます。

#### 調査実施企画委員

永瀬 伸子（お茶の水女子大学教授、日本経済学会、日本人口学会）

上田 貴子（早稲田大学教授、日本経済学会）

仲 真紀子（立命館大学教授、法と心理学会、日本心理学会）

本田 由紀（東京大学教授、日本教育学会、日本教育社会学会、日本社会学会）

中西 祐子（武蔵大学教授、日本社会学会、日本教育社会学会）

大多和 直樹（帝京大学教授、日本教育社会学会）

#### 調査実施主体

日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会（委員長：永瀬伸子）

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（委員長：井野瀬久美恵

甲南大学教授、日本学術会議連携会員、第一部総合ジェンダー分科会委員）

お茶の水女子大学

東京大学

連絡先：[geahss.office@gmail.com](mailto:geahss.office@gmail.com)